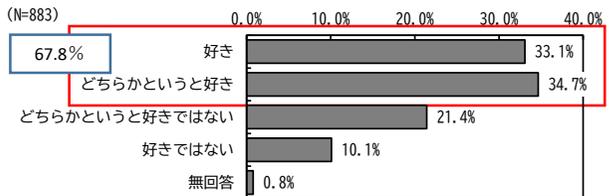
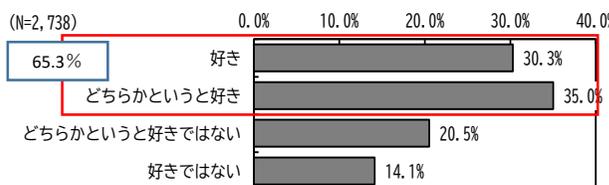


読書が好き

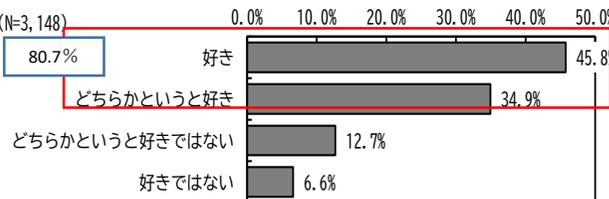
無作為抽出 (16歳以上)



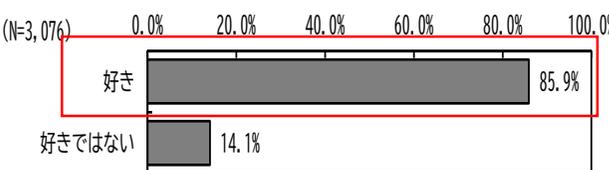
中学生 (1~3年生)



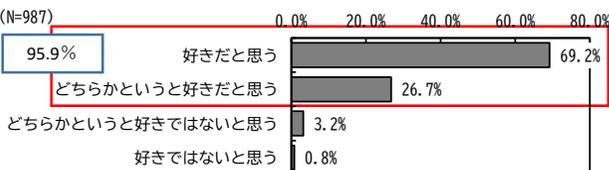
小学生 (4~6年生)



小学生 (1~3年生)

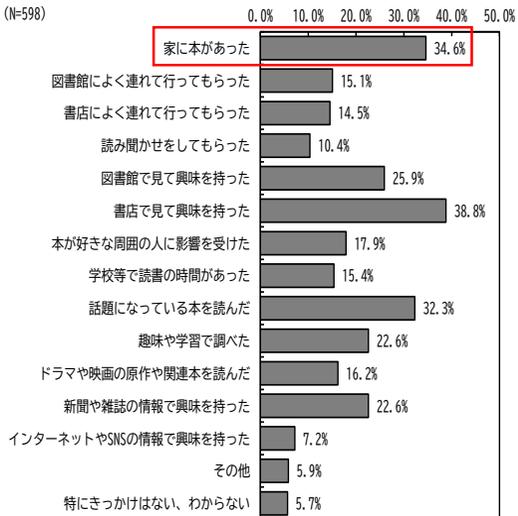


未就学児 (保護者回答)

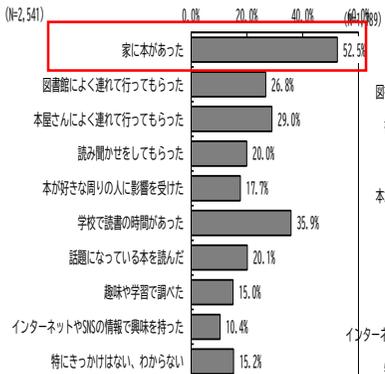


読書が好きになったきっかけ

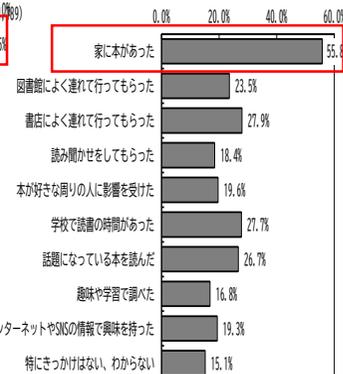
無作為抽出 (16歳以上)



小学生 (4~6年生)

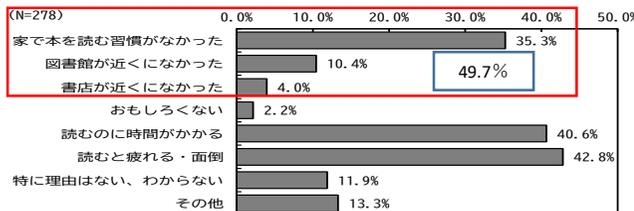


中学生 (1~3年生)

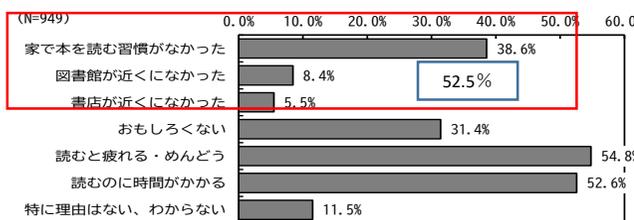


読書が好きではない理由

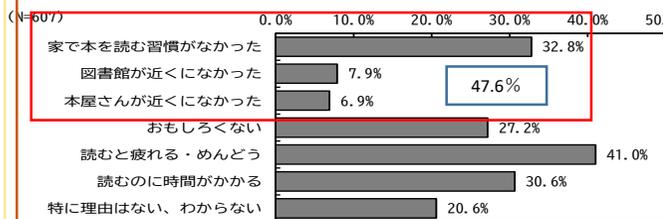
無作為抽出 (16歳以上)



中学生 (1~3年生)



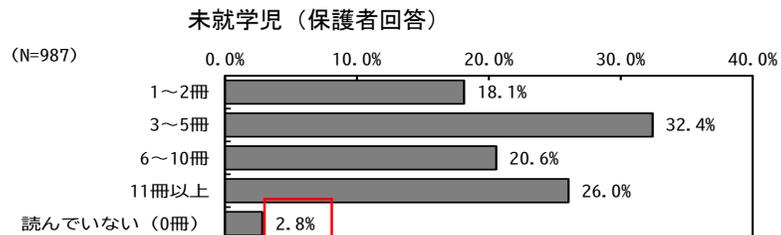
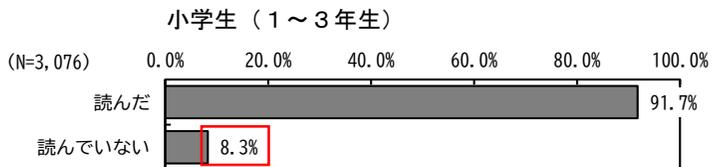
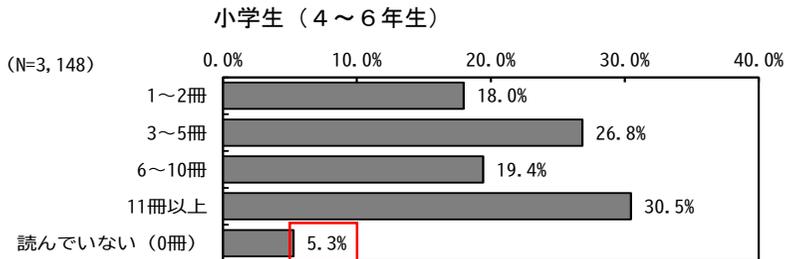
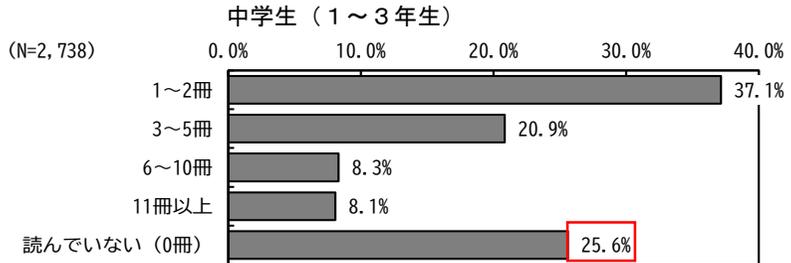
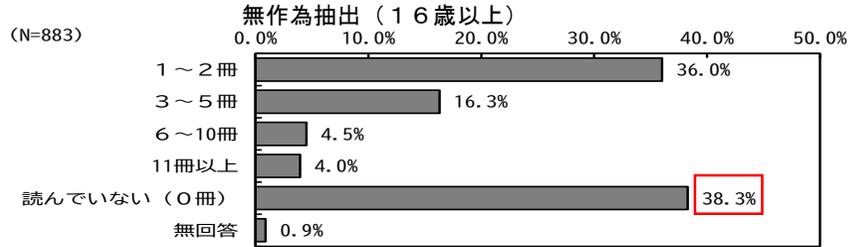
小学生 (4~6年生)



《考察》

- ・読書が「好き」「どちらかという好き」と回答した人は各アンケートにおいて約95%~約65%以上を占めている。
 - ・読書が好きになったきっかけとしては、小中学生においては「家に本があった」が約50%であり、16歳以上においても3人に1人となっている。
 - ・読書が好きではない理由は、「家で本を読む習慣がなかった」「図書館が近くになかった」「書店が近くになかった」を合わせると約50%以上となっている。
- ➡幼少期から家庭や身近に本がある環境を作り、読書習慣を形成することが必要

1か月の読書量について



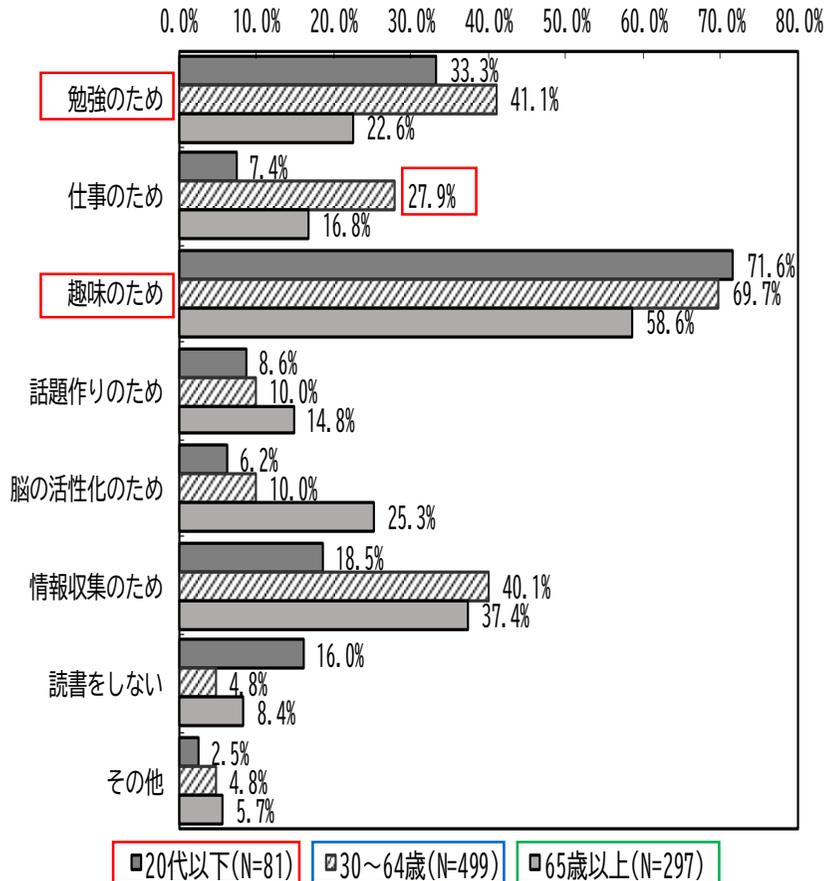
《考察》

- ・ 1か月の読書量は小学校1～3年生を除き、学齢期が上がるにつれ概ね不読率は上昇している傾向にある。
- ・ 小学生4～6年生から中学生の不読率を比較すると、おおよそ約5倍上昇している。

➡未就学児、小学生ほど読書量は高い傾向にあることから、家庭、学校、地域、図書館等のあらゆる場での読書環境の形成が必要

年齢別にみる読書をする理由

無作為抽出(16歳以上)



②

②

①

①

①

②

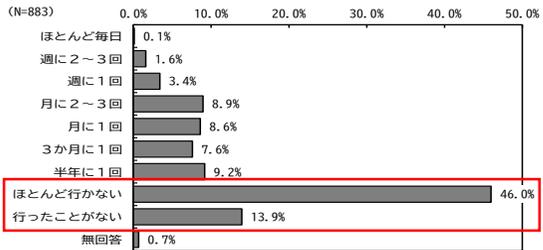
《考察》

- ・どの年齢層においても、「趣味のため」と回答した人が最も多く、20代以下で71.6%、30~64歳で69.7%、65歳以上で58.6%となっている。
- ・30~64歳については「勉強のため」が41.1%、「仕事のため」が27.9%となっている。
- ・65歳以上については、「情報収集のため」が37.4%と2番目に高い割合となっている。

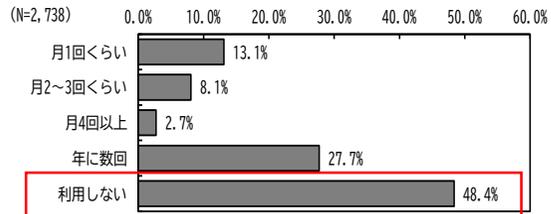
➡各世代のニーズを的確に捉えた読書活動の支援が必要
自己啓発や自己成長を目的とした読書活動の必要

公共図書館の利用

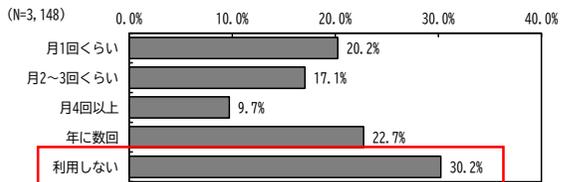
無作為抽出 (16歳以上)



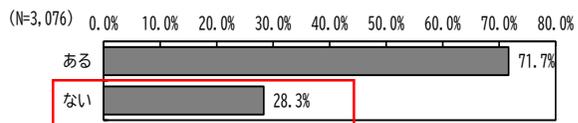
中学生 (1~3年生)



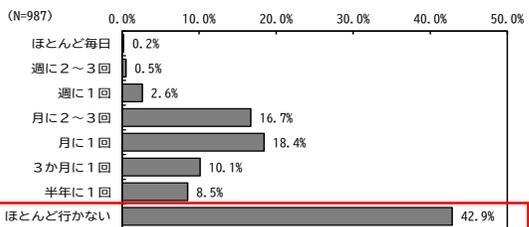
小学生 (4~6年生)



小学生 (1~3年生)

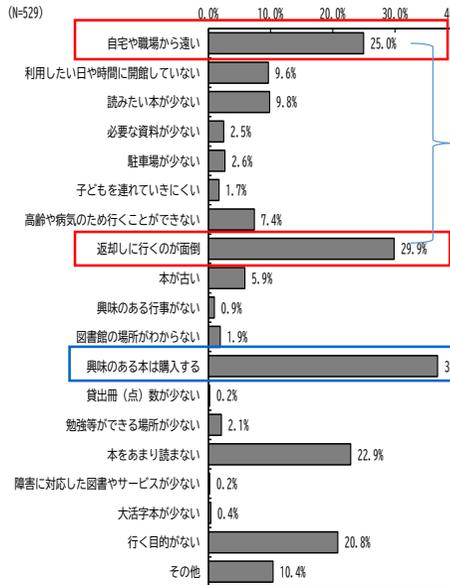


未就学児 (保護者回答)



公共図書館を利用しない理由

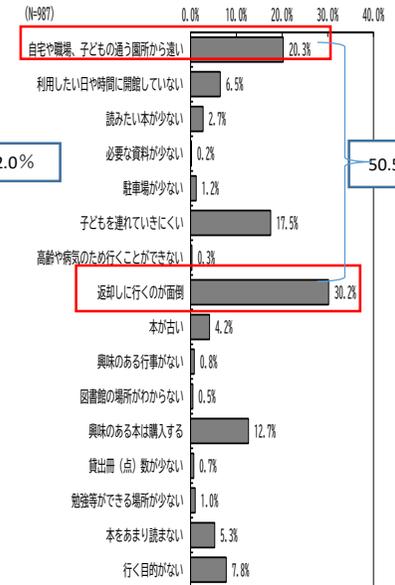
無作為抽出 (16歳以上)



中学生 (1~3年生)



未就学児 (保護者回答)



《考察》

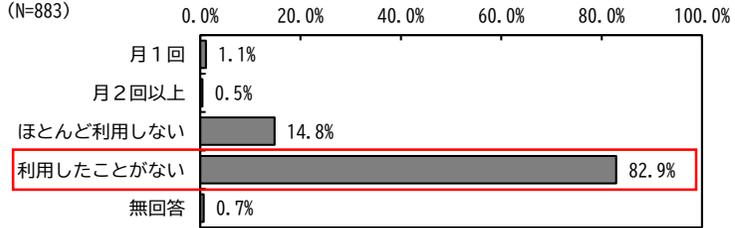
- 各アンケートにおいて、公共図書館を「利用しない」、「ほとんど行かない」と回答した人の割合は小学生を除き、約40%を超える割合となっている。
- 公共図書館を利用しない理由として、**【ハード条件】**「自宅や職場から遠い」、「本を返しに行くのがめんどろ」といった回答が合計で約50%以上となっている。

【ソフト条件】16歳以上においては「興味のある本は購入する」人の割合が3人に1人となっている。

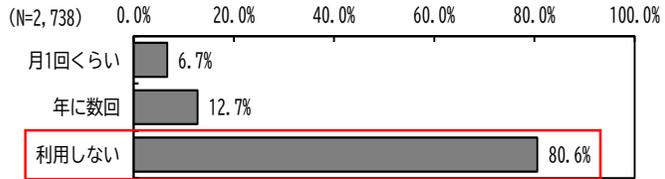
➡図書館機能の周知と利用促進
市内のどこでも気軽に読書活動ができるまちづくり

移動図書館の利用

無作為抽出 (16歳以上)

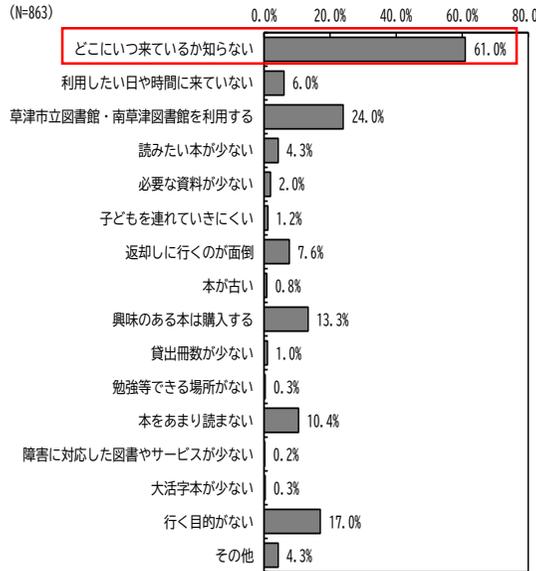


中学生 (1~3年生)

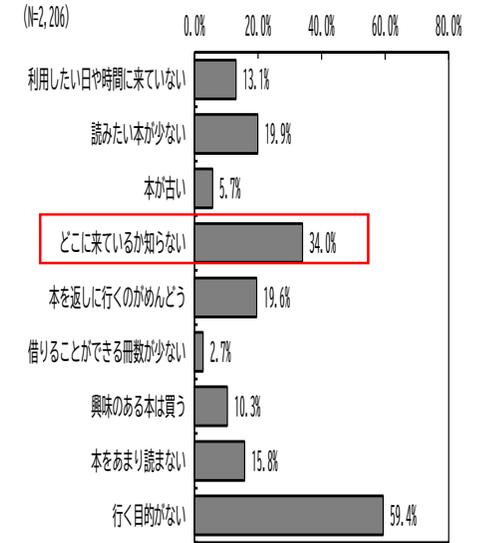


移動図書館を利用しない理由

無作為抽出 (16歳以上)

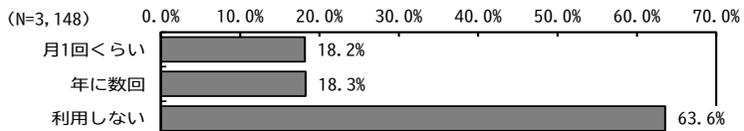


中学生 (1~3年生)

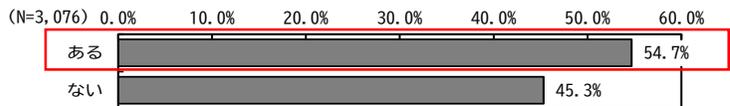


あおばな号の利用

小学生 (4~6年生)



小学生 (1~3年生)



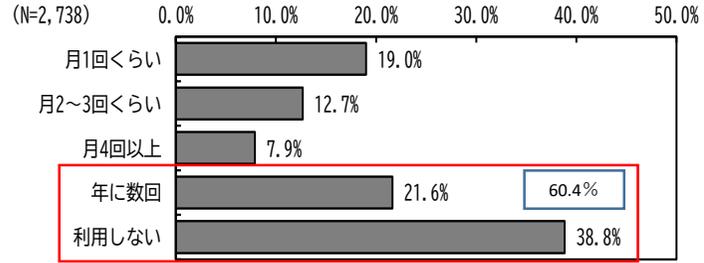
《考察》

- ・移動図書館を「利用したことがない」人の割合は16歳以上、中学生双方、80%を超えている。
- ・移動図書館を利用したことのない理由として、「どこにいつ来ているか知らない」が16歳以上で60%以上、また中学生においても3人に1人となっている。
- ・小学校を巡回している「あおばな号」の利用は小学校低学年で50%を超えている。

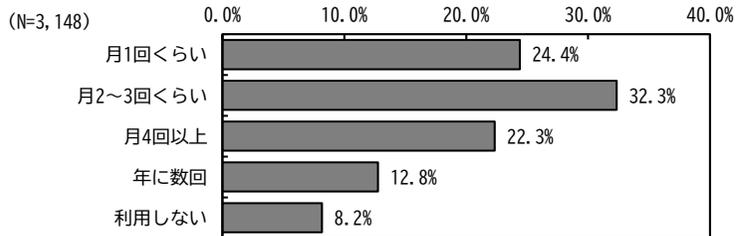
➡移動図書館の稼働についての周知が必要
年齢にあった読書意欲を高める取り組みの必要

学校図書館の利用

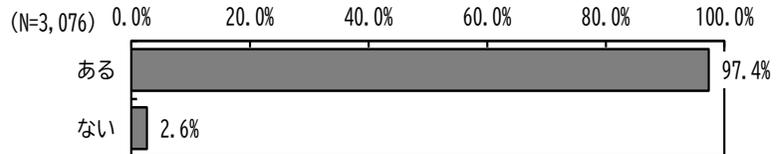
中学生 (1~3年生)



小学生 (4~6年生)

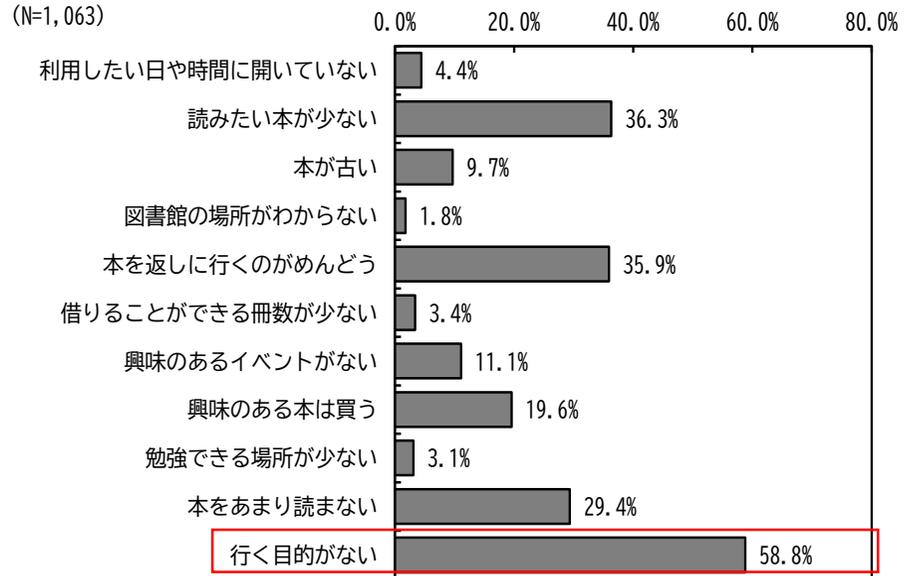


小学生 (1~3年生)



学校図書館を利用しない理由

中学生 (1~3年生)



※小学生は90%以上が学校図書館を利用

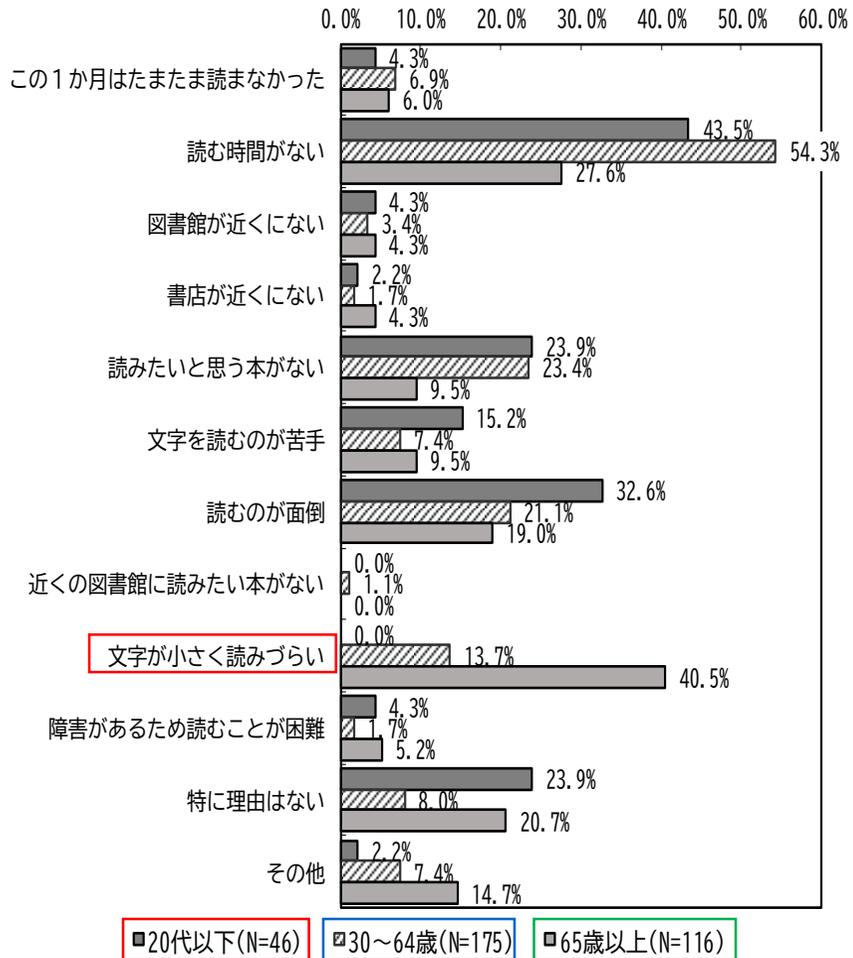
《考察》

- ・中学生の学校図書館の利用については、「利用しない」「年に数回」を合わせると60%を超えている。
- ・中学生が学校図書館を利用しない理由として、「行く目的がない」が約58%と最も高い。

➡更新した図書の周知を行うなど、学校図書館への興味関心図る必要
学校図書館の計画的な授業での利活用および図書館資料の充実の必要

年齢別にみる読書をしなかった理由

無作為抽出 (16歳以上)

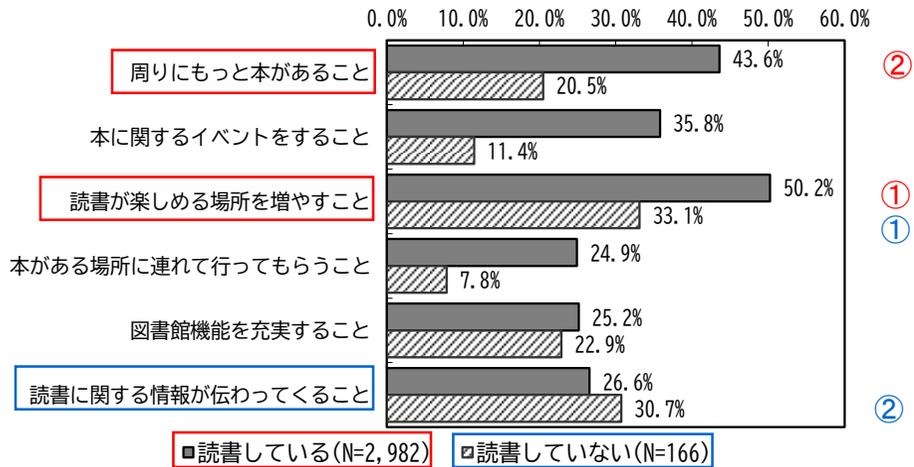


- ①
- ①
- ②
- ②
- ②
- ①

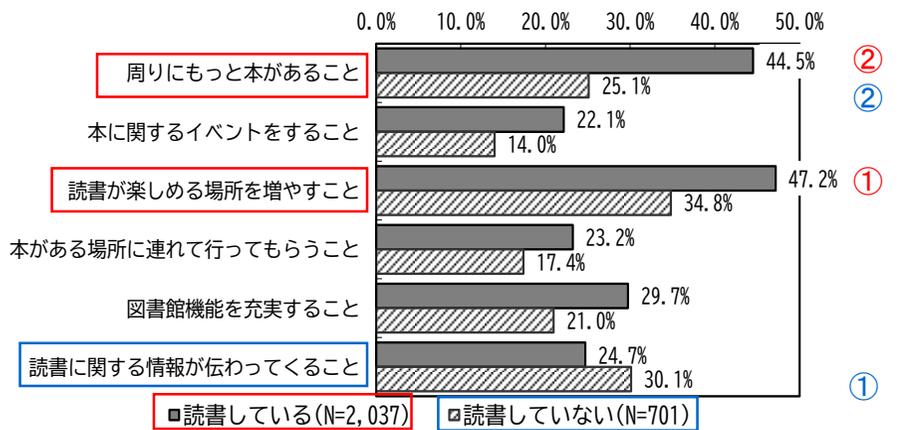
<<考察>>
 ・65歳以上については、「文字が小さく読みづらい」の割合が約40%となっている。
 →誰もが読書に楽しめる読書環境が必要

どのようなことをすればもっと読書を行うか

小学生(4~6年生)



中学生(1~3年生)



《考察》

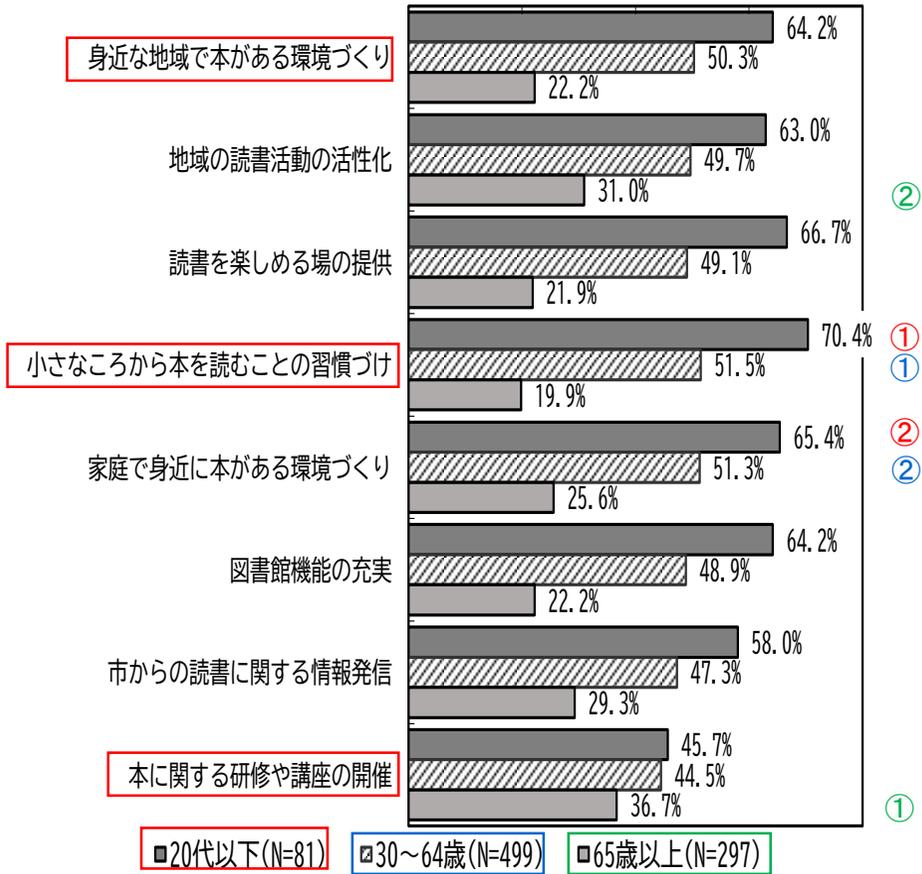
- ・小学校高学年、中学生において「読書をしている」と回答した人は、「読書が楽しめる場所を増やすこと」と回答した人が、それぞれ50.2%、47.2%と最も多くなっている。
- ・小学校高学年、中学生において「読書をしている」と回答した人は、「周りにもっと本があること」と回答した人の割合が約40%となっている。
- ・反対に「読書をしていない」と回答した人は、小学校高学年では「読書に楽しめる場所を増やすこと」、中学生では「読書に関する情報が伝わってくること」と回答した人がそれぞれ約3人に1人となっている。

➡学校図書館のみならず、校内、市内どこでも本の読める場所の整備
市内の施設だけでなく団体との連携による本に触れることのできる環境づくりが必要
対象となる層や目的に応じた情報発信の必要

読書活動推進のために大切なこと

無作為抽出 (16歳以上)

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0%



②

①

①

②

②

①

《考察》

- ・ 20代以下、30代~64歳については「小さなころから本を読むことの習慣づけ」が、20代以下で70.4%、30~64歳で51.5%と最も多かった。
- ・ 20代以下、30代~64歳については「家庭で身近に本がある環境づくり」が、20代以下で65.4%、30~64歳で51.3%と最も多かった。
- ・ 65歳以上については「本に関する研修や講座の開催」が約3人に1人であった。

➡ 幼少期の読書について、楽しみながら読書に親しむ環境や方法が必要
参加者の興味やニーズに合わせた内容や環境づくりの必要